



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特殊講義案：都市と村落 II (1)
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77379
Type	manuscript
File Information	N027_013536.pdf



NOTE BOOK

社会志書
学部三四年

東洋大学
昭和十五年
才二卷

附 昭和十五年集中講義
(86.11.17)

氏 增 記 卷 二

地を中々其の地は金と比較
 にならぬ程豊饒である。かくは
 其の地が其の地は自然に其の後
 といふ事をいふ。いふといふに

地区や町を流る地区は全く比較
にならない程異なつて居る。かくこの
本の中心村生活は自然村を最後
として考へなすれど、これは過る
と居る。

然しこの自然村は明治以前年々
共に弱体化し、特に終戦後
行はれぬ新居などの合併化、民主
主義化と共に意識に於ける他人
主義・自由主義、全視を我の發展
に伴つて急激に衰微してゐる。
事は是のかす事は未だ未だ。
然しその変化の激甚さは村に
よつて色んな異なつて居る。然し我々
の農村地帯改革によつて甚だし

く新設する人々もあつた。それ程で
ないところもある。近年における農業
~~の~~都市化の~~影響~~にかつたところ
もあり、それ程でないところもある。
交通機関の施設の多かつたところ
とそれ程と少ないところによつて、
はなつてある。

(を知らぬ)

是等の調査生活が如何にあつたかは
充分調査しなければならぬ。日本
のやうな調査にはその土地に
現に居る十種の集団の各々に
ついて調べれば、その材料が生活の
全貌の大略を知ることが出来る。
右の十種の内部に血縁的集団(特に
同族團)に村落構成の根幹を認

井了了は対に
北の方のには必死である。北の方

その北の方の地域内その内南に

周知の北の方の同いんな同知か見え

さるは、あんな地帯を破る

了北の方の知事的な北の方の

操作は、あんなの北の方の操作の

結果は、あんなの北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

はあ、北の方の北の方の北の方の北の方の

考案するところには独自の立場を

めんとする。考（方）や生産手段に

おける共同の関係統制の組織に

打落社会構成の形成を認めると

とする。考（方）や生産手段に

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

北の方の北の方の北の方の北の方の

女
或
水
に
酔
し

生産手段にかけ、文化は経済生活には
大なる文化を伴ふ、といふ家柄や
娯楽、教育、社交の生活には強、といふ文化
を伴はぬかも知れぬ。その点を明かに
し、その生活者の性質である。下部
構造にかけ、文化は上部構造にかけ
て文化をもつ実伴ふか否か、これは
同である。

社会共同性

中央部を占むは経済要素の役割に
あふれ、其のそれを理解せしむる必要

は、その生活するうちに、文化生活そのものの
性質の任務である。

社会生活の要素として、二任務を式一致
なせしむるべきである。故に、その中心に

経済の要素と文化生活の全体の中心として正しく
位置する。

機械の共同利用は共同体的といへる。大規模の吸水機械もそれなり。独立して生活し強一中い家の共同生活の形式と云つても、生活し強いと云ふの比較的の意味で、より多く生産力を高のよめの掃力は限りなく有る。共同生活の形式が共同体的なり。共同性は永久に共同体的であらう。コレもたは共同性か。耕地や山林や水の共同を共同性と思ふのはあつた。

封建性は共同性、同姓なりといふ。が苛酷な要求をもつ。地主は農民を常に最低の生活にし、よりけい。生産技術の相違により、額を如何にか、生活を支配した。

評價して位置づけよとの必要を云はす。人のありたいを云へる。村落共同性は、工業的發展にない。村落は、形式であるが、二の段階を經過した村落は、工業的發展を經過した形式である。日本は、村落共同性の性格を脱皮した村落に今もあつた。脱皮して、あるところである。これを確認するのは必要である。

共同性を度としての中世を、脱皮した村落は、中世末、脱皮した村落は、早や共同性である。

三十六年度 東京市議義

村郷より都市への発展の歴史を語る

社会の発展をみる

社会の発展をみる

社会の発展をみる

社会の発展をみる

四つの我々の世界、経済的枠組

宗教と国家が最強

村郷と都市の関係

(東京市議義の概念)

経済的枠組の存在

社会構造の理解

国との関係

アメリカの都市社会と日本の都市社会の比較

日本人の社会生活の発展をみる

三十六年度 十月十七日

二四〇一四、五〇